

検査 どう違うの？

PCR、抗原、抗体

新型コロナウイルスに関する主な検査は「PCR検査」がよく知られていますが、他に「抗原検査」や「抗体検査」も耳にすることが多くなりました。しかし、「その違いがよく分からない」という方も多いようです。改めてそれぞれの検査について目的や検査方法、特徴などを紹介します。

■ PCR検査

【目的】

現在感染しているかどうかを調べる。

【検査の方法】

ウイルスを特徴づける遺伝子配列を検出する。鼻や喉の粘液、または唾液を採取し、その中に含まれるウイルスの遺伝子を大量に増やし調べる。鼻の粘液は細い棒を鼻の奥まで入れて採取する。最近は検査時の意志の感染リスクを抑えるため、唾液による方法も増えてきた。

【判定までの時間】

粘液採取後 数時間～1日

【特徴】

感度がよく、陰性の見落としが少ない。

■ 抗原検査

【目的】

現在感染しているかどうかを調べる。

【検査の方法】

ウイルスを特徴づけるたんぱく質（抗原）を測定し、ウイルスの存在を確認する。鼻や喉の粘液、唾液を採取して調べる。

【判定までの時間】

簡易キットの場合、粘液採取後30分程度。

【特徴】

抗原は遺伝子と違い、それ自体を増やすことはできず、PCR検査に比べると感度が低い。

■ 抗体検査

【目的】

過去に感染したことがあるかどうかを調べる。

【検査の方法】

血液を採取し、免疫機能（外から入ってきた異物を排除しようとする働き）により生成されるたんぱく質（抗体）が体内に存在するかを調べる。

【特徴】

ウイルスの存在を示す検査ではない。検査キットによって測定値にバラつきがある。新型コロナウイルスとその抗体に関するデータがまだ不十分で、養成であっても必ずしも免疫抵抗性が備わっているとは断定できない。

南東北グループ広報誌「南東北第 342 号」より転載